

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 7 月 31 日 (2008.7.31)

【公開番号】特開 2006-345912 (P2006-345912A)
 【公開日】平成 18 年 12 月 28 日 (2006.12.28)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-051
 【出願番号】特願 2005-172339 (P2005-172339)
 【国際特許分類】

A 4 5 C 7/00 (2006.01)

A 4 5 C 13/00 (2006.01)

【F I】

A 4 5 C 7/00 E

A 4 5 C 13/00 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 20 年 6 月 6 日 (2008.6.6)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

キャリーバッグの上部に載置され、該キャリーバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、

該ポケット構造は、

上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて縫着してポケット用シート部材を形成し、

該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胴部に縫着されてなることを特徴とするバッグのポケット構造。

【請求項 2】
 前記下部シート材の縦寸法 L 1 は、前記上部シート材の縦寸法 L 2 よりも長いことを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【請求項 3】
 前記上部シート材の下端部には、前記スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【請求項 4】
 前記上部シート材の内側と前記バッグの胴部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが縫着されていることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【発明の詳細な説明】
 【発明の名称】バッグのポケット構造
 【技術分野】

【0001】

本発明は、キャリーバッグの上部に載置され、更には、キャリーバッグから外して単独

でも使用できるバッグのポケット構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のバッグとしては、図7に示すような構成のものが知られている。このバッグ1は、上部に手提げ用の把手2、及びショルダーベルト3を有すると共に、胴部4には帯状のベルト5が設けられている。また、キャリーバッグ6には、伸縮自在なフレーム状のハンドル7が設けられており、このハンドル7をベルト5の下部から挿通して上部に突出させて、バッグ1を保持する。

【0003】

また、図8に示すような構成のバッグ8も知られている。このバッグ8は、胴部9にポケット10を有し、ポケット10の下端部11には、開閉自在なスライドファスナー12が設けられている。このバッグ8をキャリーバッグ6の上部6aに載置するときには、ファスナー12を開いて、ハンドル7を下端部11から挿通して、ポケット10の上部に突出させることにより、バッグ8を保持する。

【0004】

一方、バッグ8をキャリーバッグ6から外して単独で使用するときには、スライドファスナー12を閉めて、ポケット10に小物等を収納できるようにする。

【0005】

この他のバッグとしては、例えば実用新案登録第3045786号公報、及び特開2000-308511号公報に開示されたものが知られている（特許文献1、2参照）。

【特許文献1】実用新案登録第3045786号公報

【特許文献2】特開2000-308511号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

この従来例のバッグ1においては、単独で使用するときに、胴部4をポケットとして使用できない。また、ベルト5が邪魔であり、見た目にも格好が悪いという欠点を有している。

【0007】

また、バッグ8においては、単独で使用するときに、スライドファスナー12を閉め忘れると、ポケット10に収納した小物等が下端部11から落ちるおそれがある。また、スライドファスナー12が露出した状態にあるので、上着やズボンの生地に触れて傷つけるおそれがあるという欠点も有している。

【0008】

従って、従来例におけるバッグ1、8においては、胴部4をポケットとして使用できるようにすることと、スライドファスナー12を閉め忘れても小物等が落ちないようにすることと、スライドファスナー12によって生地を傷つけないようにすることとに解決しなければならない課題を有している。

【課題を解決するための手段】

【0009】

前記従来例の課題を解決する具体的手段として本発明は、キャリーバッグの上部に載置され、該キャリーバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、該ポケット構造は、上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて縫着してポケット用シート部材を形成し、該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胴部に縫着されてなることを特徴とするバッグのポケット構造を提供するものである。

【0010】

また、前記下部シート材の縦寸法L1は、前記上部シート材の縦寸法L2よりも長い構成としたものであり、そして、前記上部シート材の下端部には、前記スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられている構成としたものであり、更に、前記上部シート

材の内側と前記バッグの胴部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが縫着されている構成としたものである。

【発明の効果】

【0011】

本発明に係るバッグのポケット構造は、キャリーバッグの上部に載置され、該キャリーバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、該ポケット構造は、上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて縫着してポケット用シート部材を形成し、該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胴部に縫着されてなることによって、スライドファスナーを開いて、そこからキャリーバッグのハンドルを挿通して、ポケットの上部に突出させると、バッグが保持される。

また、バッグを単独で使用する際には、スライドファスナーを閉めて、ポケットとして使用できる。この場合、スライドファスナーがポケット用シート部材の中程よりも上部に位置するので、仮にスライドファスナーを閉め忘れてもポケットに収納した小物等が落ちないという優れた効果を奏する。

【0012】

また、下部シート材の縦寸法L1は、上部シート材の縦寸法L2よりも長いことによって、スライドファスナーの位置がポケット用シート部材の中程よりも上部に位置することとなる。従って、バッグを単独で使したときに、スライドファスナーを閉め忘れてとしても、ポケットに収納した小物等が落ちないという優れた効果を奏する。

【0013】

そして、上部シート材の下端部には、スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられていることによって、スライドファスナーが露出しないので、上着やズボンの生地を傷つけないという優れた効果を奏する。

【0014】

更に、上部シート材の内側と前記バッグの胴部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが縫着されていることによって、ポケット入口が面ファスナーで胴部に係止される。また、ポケット入口の開閉が自在であるという優れた効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、理解容易のため、従来例に対応する部分には従来例と同一の符号を付けて説明する。

【0016】

まず、図1は、キャリーバッグ6の上部6aに載置されたバッグ21の斜視図であり、図2は、バッグ21の単独での使用状態を示す斜視図である。

【0017】

このバッグ21は、上部21aに手提げ用の把手22を有し、側部21bには肩掛け用のショルダーベルト23が取り付けられるようになっている。また、バッグ21の胴部24には、後述するポケット構造25を有している。

【0018】

キャリーバッグ6は、側部6bに把手26を有し、底部6cにはキャスター27が設けられている。また、キャリーバッグ6の上部6aには、伸縮自在なフレーム状のハンドル7が設けられており、このハンドル7を引き出して移動し、不使用時にはキャリーバッグ6の内部に収納できる。

【0019】

バッグ21のポケット構造25は、図3(イ)(ロ)(ハ)(ニ)に示すように、上部シート材28と下部シート材29とをスライドファスナー30を介在させて縫着してポケット用シート部材31を形成し、このポケット用シート部材31の両端部31a、31a及び下端部31bをバッグ21の胴部24に縫着してなる。

【0020】

このポケット構造25の製作工程にしたがって説明する。上部シート材28は、胴部2

4の横寸法と略同一の横寸法に形成されており、また、所定の縦寸法L2に形成されている。そして、この上部シート材28の内側には面ファスナー32が縫着される。更に、上部シート材28の下部は、所定幅が内側に折り曲げて縫着されており、この折り曲がり部位がファスナー隠し部33を形成する(図3(イ)参照)。

【0021】

下部シート材29は、上部シート材28と略同一の横寸法に形成されている。また、下部シート材29の縦寸法L1は、上部シート材28の縦寸法L2よりも長く形成されることが望ましい(図3(イ)参照)。このように縦寸法L1を長くすることにより、スライドファスナー30の位置がポケット用シート部材31の中程よりも上部に位置することとなり、バッグ21を単独で使用したときに、スライドファスナー30を閉め忘れても、ポケットに収納した収納物42が落ちないのである(図2参照)。

【0022】

次に、下部シート材29の上端部29aにスライドファスナー30の一方の側部30aを縫着する。そして、スライドファスナー30の他方の側部30bをファスナー隠し部33の上部33aに縫着する(図3(イ)参照)。このように縫製することにより、スライドファスナー30がファスナー隠し部33に隠れて露出しないので、上着やズボンの生地を傷つけない(図4参照)。

【0023】

更に、スライドファスナー30の先端部側30c及び後端部側30dを押え縫いにより補強して、スライダー34の抜けを防止する(図3(ロ)参照)。

【0024】

なお、スライドファスナー30の長さは、キャリーバッグ6のハンドル7の幅よりもやや長い必要がある。つまり、図1に示すように、スライドファスナー30を開いて、そこからキャリーバッグ6のハンドル7を挿通して、ポケット36の上部に突出させるからである。

【0025】

一方、バッグ21の胴部24には、面ファスナー35が縫着される(図3(ハ)参照)。この面ファスナー35は、上部シート材28の面ファスナー32と対応する位置に縫着される。このように、面ファスナー35と面ファスナー32とが対応する位置に縫着されることにより、ポケット36の入口が胴部24に係止され、また、ポケット36の入口の開閉が自在になる(図3(ニ)参照)。

【0026】

ポケット用シート部材31は、両端部31a、31a及び下端部31bが、バッグ21の胴部24の両端部24a、24a及び下端部24bに縫着される。そして、ポケット36入口の両端部36a、36a近傍を押え縫いにより補強して、収納物出し入れ時の生地裂け防止を図る。以上のようにして、バッグ21の胴部24にポケット構造25が形成される。

【0027】

次に、バッグのポケット構造25の他の実施例について説明する。図5に示すバッグ37は、長い形状のスライドファスナー38が用いられている。この場合、スライドファスナー38の先端部側及び後端部側が、ポケット39入口の両端部39a、39a近傍位置と略同一位置にある。これは、キャリーバッグ6のハンドル7の幅広に対応させて、スライドファスナー38を長く形成したものである。

【0028】

また、図6は、ポケット構造25を備えるバッグの他の実施例である。例えばブリーフケース41にポケット構造25を有しており、その上部にはアーチ状の把手40が設けられている。

【0029】

以上のように構成されるバッグのポケット構造25は、スライドファスナー30開いて、そこからキャリーバッグ6のハンドル7を挿通して、ポケット39の上部に突出させる

と、バッグ 2 1 が保持されるので、移動時等に便利である（図 1 参照）。

バッグ 2 1 を単独で使用する際には、スライドファスナー 3 0 を閉めて、ポケット 3 9 として使用できる（図 2 参照）。この場合、スライドファスナー 3 0 がポケット用シート部材 3 1 の中程よりも上部に位置するので、誤ってスライドファスナー 3 0 を閉め忘れてもポケット 3 9 の収納物 4 2 が落ちないのである。

【産業上の利用可能性】

【0030】

本発明のバッグのポケット構造 2 5 は、実施例に示すバッグ 2 1 に限定されることはなく、例えば、ショルダーバッグ、ビジネスバッグ、ボストンバッグ、ハンドバッグ、ソフトアタッシュ、アタッシュケース、リュックサック、ナップザック等の種々な種類のバッグに設けることが可能である。また、ポケット構造 2 5 は、布製、皮革製、軟質又は硬質の合成樹脂製、紙製、金属製等の様々な素材で形成されたバッグに対して、様々な素材を用いて形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【0031】

【図 1】キャリーバッグ 6 の上部 6 a に載置されたバッグ 2 1 の斜視図である。

【図 2】バッグ 2 1 の単独での使用状態を示す斜視図である。

【図 3】（イ）上部シート材 2 8 及び下部シート材 2 9 の説明図である。（ロ）ポケット用シート部材 3 1 の説明図である。（ハ）バッグ 2 1 の胴部 2 4 を示す説明図である。（ニ）胴部 2 4 にポケット用シート部材 3 1 を縫着する状態を示す説明図である。

【図 4】図 3（ロ）のファスナー隠し部 3 3 の一部を破断して示した説明図である。

【図 5】バッグの他の実施例を示す正面図である。

【図 6】バッグの他の実施例を示す正面図である。

【図 7】従来例に係るバッグ 1 の斜視図である。

【図 8】従来例に係るバッグ 8 の斜視図である。

【符号の説明】

【0032】

- 1 バッグ
- 2 把手
- 3 ショルダーベルト
- 4 胴部
- 5 ベルト
- 6 キャリーバッグ
- 6 a 上部
- 6 b 側部
- 6 c 底部
- 7 ハンドル
- 8 バッグ
- 9 胴部
- 10 ポケット
- 11 下端部
- 12 スライドファスナー
- 21 バッグ
- 21 a 上部
- 21 b 側部
- 22 把手
- 23 ショルダーベルト
- 24 胴部
- 24 a、24 a 端部
- 24 b 下端部

- 2 5 ポケット構造
- 2 6 把手
- 2 7 キャスター
- 2 8 上部シート材
- 2 9 下部シート材
- 2 9 a 上端部
- 3 0 スライドファスナー
- 3 0 a、3 0 b 側部
- 3 0 c 先端部側
- 3 0 d 後端部側
- 3 1 ポケット用シート部材
- 3 1 a 端部
- 3 1 b 下端部
- 3 2 面ファスナー
- 3 3 ファスナー隠し部
- 3 3 a 上部
- 3 4 スライダー
- 3 5 面ファスナー
- 3 6 ポケット
- 3 6 a、3 6 a 端部
- 3 7 バッグ
- 3 8 スライドファスナー
- 3 9 ポケット
- 3 9 a、3 9 a 端部
- 4 0 把手
- 4 1 ブリーフケース
- 4 2 収納物